

第 1 章 都市景観形成の基本的な考え方

1 - 1. 基本理念	9
1 - 2. 都市景観の特色	10
1 - 3. 基本目標	11

1 - 1. 基本理念

(1) 日本を代表する歴史的都市としての発展

歴史的遺産が豊富で、四季の移ろいの変化が美しい鎌倉は、京都・奈良と並び、わが国を代表する古都として多くの人々に親しまれています。

古都の山々に囲まれた地域に点在する社寺は、普遍的価値を有する世界的な遺産であり、その歴史と自然が織り成す古都の景観は、鎌倉の魅力の一つでもあります。

今後も日本を代表する歴史的都市としての発展をめざすため、鎌倉にふさわしい風格ある都市景観の形成が求められます。

(2) 固有の文化を育んできた原風景の継承

鎌倉で今日まで育まれてきた文学・美術・音楽・哲学などの豊かな文化は、鎌倉の自然、歴史的環境の総和としての都市景観と密接な関わりを持っています。

そして、鎌倉固有の文化は、重なり続く山々の緑を背に、光あふれる海に向かって開ける日本人の心の故郷ともいえる原風景の中で育まれてきました。

この鎌倉固有の文化を育んできた原風景を継承するために、豊かな自然を活かした魅力ある都市景観の形成をすすめることが大切です。

(3) 自然と調和した親しみのある都市空間づくり

鎌倉は、三方が山に囲まれ、一方が海に開けるという恵まれた自然環境の中で、人間活動にとって最適な規模（ヒューマンスケール）を持つコンパクトな都市といえます。

この親しみある都市空間は、鎌倉を訪れる人々が最も魅力を感じる景観イメージであり、かけがえのない財産として将来に伝え育てていく必要があります。

(4) 風格を保ち生き生きとした生活創造都市の確立

鎌倉は、湘南三浦地域の中堅都市として、文化、産業、行政全般にわたり重要な位置を占めています。また、近年の都市活動は、鎌倉の首都圏における地理的位置、古都としての雰囲気、文化的欲求の高さなどを背景に活気を呈しています。

そこで、地域の特性を活かした生活創造都市をめざして、風格と活力をそなえた新しい都市景観の形成をすすめる必要があります。

(5) 環境にやさしい薫風の都市づくり

近年の環境問題への関心の高まりの中で、鎌倉においても、環境への負荷の低減や生態系への配慮が求められています。都市景観の形成にあたっては、雨水の再利用や生態系に配慮するなど、環境にやさしい都市づくりを心がけます。

1 - 2. 都市景観の特色

(1) 「古都鎌倉」と「新しい鎌倉」の2つの顔

若宮大路を中心とする古都鎌倉は、時代を画した都市構造の原型がその後の時代にも受け継がれ、豊かな自然環境と適度の調和を保ちながらヒューマンスケールの都市景観として残されています。

一方、大船をはじめとする新しい鎌倉は、古都鎌倉と丘陵部の山並みを介して明確に分けられています。

J R東海道本線沿線には主要な都市機能の集積がすすんでおり、魅力的で活力ある新しい鎌倉にふさわしい都市景観の形成がすすんでいます。

都市形成の歴史から、また、自然環境との関わり方から、大きく表情を異にする2つの顔が鎌倉の都市景観の特色となっています。

(2) 前面に広がる光あふれる海

鎌倉には、日本の古都を代表する京都・奈良にはない海があります。

鎌倉の多くの場所から海が眺望できるだけでなく、温暖な気候や潮の香り、太陽の光などを通じて、鎌倉らしさを感じる風景の一つとなっています。

海は、自然環境としてだけでなく、史跡、景勝地、漁港、海水浴場などの歴史的・文化的な価値を持った場所であることが鎌倉の都市景観の特色となっています。

(3) 山懷に抱かれた佇まい

鎌倉は、三方を標高100m～150m前後の山々に取り囲まれています。

古都の形成以来、鎌倉のまち並み形成は、山の傾斜と尾根で挟まれた平地の中で細心の注意を払ってすすめられてきました。そして、こうした積み重ねは、都市の風格と文化的な先進性を誇りに思う市民意識に受け継がれています。

谷戸の中に融け込むまち並みや山々の緑を背に海に向かって開けるヒューマンスケールのまち並み、また、腰越から大船へ続く山並みと玉縄の丘陵地に挟まれ多様な都市機能の集積がすすむまち並みなど、山懷に抱かれた佇まいが鎌倉の都市景観の特色となっています。

(4) 歴史的遺産が自然環境の中に融け込んでいる風土

鎌倉のまち並みは、谷戸の中に程よく納まっている社寺にその原型を見ることができます。

この自然と歴史が融け込んだ歴史的風土は、それぞれの時代の高質な文化を担っていた先人が、鎌倉の地形的な特徴や四季折々の変化を活かしながら、つくり伝えてきたすぐれた建物や庭園などによって今日に受け継がれています。

このような歴史的遺産が自然環境の中に融け込んだ歴史的風土が、鎌倉の都市景観の特色となっています。

1 - 3. 基本目標

(1) 自然環境と歴史的遺産が融和した都市景観の形成

自然環境と歴史的遺産が融和した都市景観は、山懷に抱かれた佇まいとして、また、歴史を積み重ねてきた奥行きのあるまち並みとして、鎌倉の基本的な景観イメージをつくりあげてきました。

これらは、国民的財産である歴史的風土[#]として、あるいは、古都にふさわしい都市づくりのあり方として、将来に継承・発展させなければなりません。

わが国を代表する歴史的都市として着実な発展をめざすためにも、自然環境と歴史的遺産が融和した古都にふさわしい都市景観の形成をめざします。

(2) ヒューマンスケールの都市景観の形成

前面に広がる海と三方を山で囲まれた自然環境は、一方で主要な眺望点から光あふれる海が見え、一方ではまちのそこかしこから重なり続く山々の緑が見えるというヒューマンスケールの都市をつくりあげてきました。

このような古都のまち並みを縁取る自然環境が市街地を包みこんで、訪れる人々にヒューマンスケールの鎌倉らしさを印象づけています。

そして、この鎌倉らしさを大切にしたい景観づくりをすすめていくことは、鎌倉を訪れる人たちと多くの歴史的遺産の交流による、魅力的でふれあいのある観光・文化の環境づくりに寄与すると考えられます。

そこで、ヒューマンスケールの都市特性を活かした親しみある都市景観の形成をめざします。

(3) 地域の個性を尊重した風格ある都市景観の形成

鎌倉は、都市形成の歴史や地形的特色などの違いを背景に、地域ごとに豊かで特徴のある都市景観を形成しています。

歴史と文化の香り漂う古都の地域、青い海と一体的に育まれてきた地域、丘陵地にひろがる緑豊かな住宅地域、柏尾川沿いの商工業の盛んな地域など、それぞれが個性的な表情をもっています。またその地域特有の貴重な歴史的遺産も多く残されています。

そこで、各々の地域が守り、育んできた個性を尊重した風格ある都市景観の形成をめざします。

(4) 新しい時代にこたえる生き生きとした都市景観の形成

鎌倉では、今日まで、時代の価値観に影響を与えるような高度な文化が育まれ、多様で奥行きのある都市景観が形成されてきました。そして、恵まれた交通条件を背景に、湘南三浦地域の文化・産業の中堅都市の一つとして、さらに発展していくことが期待されています。

そのためには、鎌倉固有の文化を継承・発展させつつ、新しい文化の創造にも貢献できるような都市づくりを行うとともに、健全な商工業の発展や産業基盤の整備をすすめるための社会資本の充実を図る必要があります。

そこで、快適な活力のある地域社会の継続的な形成を図るため、新しい時代にこたえる生き生きとした都市景観の形成をめざします。

(5) 心を豊かにする都市景観の形成

谷戸の緑豊かな家並み、歴史的風土[#]と調和した市街地のまち並みなど、鎌倉らしい都市景観は、鎌倉を誇りに思う市民のさまざまな営みによって支えられています。

調和のとれた美しい都市景観は、生活環境そのものの価値を高め、心を豊かにし、市民による地域環境の保全と創造を図る動機づけとなります。

ごみを捨てたりしない心、川や緑を愛し自然を慈しむ心、地域や郷土の風景を大切にする心など、市民や訪れる人々の心を豊かにする都市景観の形成をめざします。

